

## 」 Outlookで送信すると特定受信側で添付ファイルが消失。

### 【概要】

Outlook からメールに添付ファイルを付けて送信すると(場合によっては添付しなくても)、受信側で以下のような現象が発生することがあります。

- メール本文が届いているが、添付ファイルがない。
- 添付ファイルは受信されているが、名前が“Winmail.dat”というファイルに変わる。
- “ATT00001.txt”(数字部分はその都度変化)というファイルが添付されている。  
(自分宛に送信した際も発生)
- 本文は正常に表示されているが、その下にヘッダー情報から始まる不明な文字列が  
沢山表示される。

### 【原因】

Outlook 2003 以降のバージョンの製品では、Outlook 独自の形式である「リッチテキスト形式(RTF)」が搭載されています。

基本的にこの形式に対応している製品は Microsoft Outlook のみである為、OutlookExpress を含む他のメールソフトで受信する際に正常に表示できるようにエンコードに依存しない TNEF (Transport Neutral Encapsulation Format) というフォーマットで送信を行っています。

この方式では、添付ファイルを含めたメールデータを“Winmail.dat”という dat ファイルにカプセル化をして送りますが、受信側のメールソフトが“Winmail.dat” ファイルをデコードできなかったり、認識できない場合に、当該ファイルがそのまま残ったり、添付ファイルが消失するよう見えたりする現象が発生しています。

厳密には「リッチテキスト形式」以外を利用した場合でも、特定の条件下で本現象が発生します。

Outlook 2010(Exchange 環境下以外)でこの現象を回避するためには、TNEF を使用して送信しないようにレジストリに変更を加えます。

尚、レジストリの変更を行うと、「投票ボタンの機能」や「仕事の依頼」、Word・Excel からのコピーなど、一部の機能が利用できなくなります。

(通常のメール送受信や連絡先、予定表の利用などを行っている範囲では問題ありません)

以下に、レジストリの変更方法を記載します。

## 【レジストリ設定】

『Outlook 2010』の場合

レジストリキー: HKEY\_CURRENT\_USER¥Software¥Microsoft¥Office¥14.0¥Outlook¥Preferences

データの名前: DisableTNEF

データの種類: DWORD

データの値: 1

『Outlook 2007』の場合

下記の URL の『 Fix it』 ボタンをクリックすることで現象を回避できるようになります。

<http://support.microsoft.com/kb/958012/ja>

『Outlook 2003』の場合、以下のレジストリ設定を行います。

レジストリ キー: HKEY\_CURRENT\_USER¥Software¥Microsoft¥Office¥11.0¥Outlook¥Options¥Mail

データの名前: DontEncodeCustomNote

データの種類: DWORD

データの値: 1

## 【レジストリでの設定方法】

注意: レジストリを誤って変更すると、深刻な問題が発生しますので充分注意してください。

①. レジストリ エディタの立ち上げ。

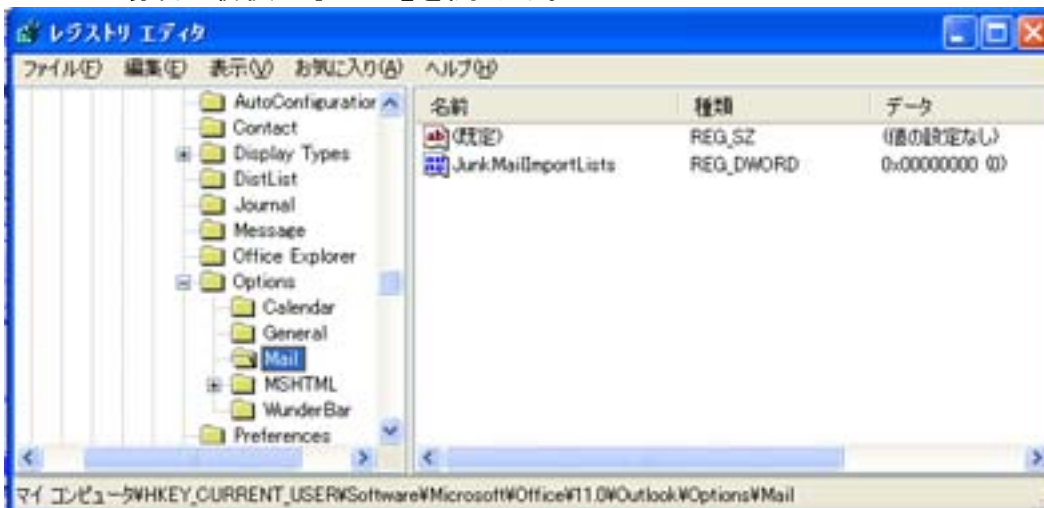
2010・2007: 『スタート』⇒『検索の開始』に『regedit』と記載し Enter

2003: 『スタート』⇒『ファイル名を指定して実行』⇒名前欄に『regedit』と記載し OK

②. 上記のレジストリキーに従いファイルを開け

2010・2007 の場合: 最後の『Preferences』を開ける。

2003 の場合: 最後の『Mail』を開ける。



2003 の場合

右空白で右クリック **新規(N)** で『DWORD 値』選択

『新しい値 #1』を右クリック「名前の変更」でデータ名を『DontEncodeCustomNote』に変更

2010 は『DisableTNEF』に変更

変更した名前をダブルクリックで「DWORD 値の編集」⇒値のデータを『1』に変更し OK

以上でレジストリ設定の完了。